



## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在行えていない。	○	ケアマネをはじめ町内のスタッフもいるため彼らが中心となって地域貢献を図りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてのサービス評価で、スタッフ全員で考え意見を出し合っている。		サービス評価時には別にスタッフミーティングの時間を設け、自己評価をもっと深くさぐっていききたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、行政・地域代表・家族が参加している。現在の利用状況・活動報告・ヒヤリハットなど話し合い、地域住民からの要望等意見を交わしサービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携では、会議の参加・アドバイス等に加えて入居者との食事会も行い行き来する機会を作っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学ぶ機会があるが、スタッフに対しての内部研修の充実ができていない。		スタッフにも今後は外部研修に行ってもらい、内部研修を行い理解を深めてもらいたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待に関する市役所での研修に参加し、スタッフに広めている。又、虐待行為等の資料をもとに十分注意を払い防止に努めている。		

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は全てを分かりやすく文章・口頭で伝え、十分理解していただき納得の上、不安がないようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者がいつでも不満や困っていることが言える様な関係を築き、個別にも対応している。又、ご意見箱や苦情ノートにて改善に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時には、ケアプラン・金銭管理表・現在の健康状態などを報告している。又、毎月1回の「イコロ便り」を郵送し入居者の日々の生活風景を知らせている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時に話を伺い、苦情表でスタッフと解決に向け取り組んでいる。又、表面だと言って言えないこともあるので意見箱を設置しているが、なかなか使用されていない。</p>		<p>運営推進会議や家族来所時などに意見箱の活用をその都度促していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフに運営状況を伝え、常に何か疑問に感じることはないかなど話し合っている。全体ではスタッフミーティングの場を設け意見交換している。</p>		<p>スタッフ全体でのミーティングの頻度を今後もう少し増やしていきたい、職員の意見をもっと反映していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者に影響しない様に必要な日・時間を見極め臨機応変に動いている。又、スタッフの要望も早めに聞き対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>極力、離職者が出ない様な環境作りをし離職や異動が発生した場合は入居者、特に担当入居者の家族にはしっかりと説明し、その離職によってサービスが変更したり質が落ちることがない様努めている。</p>		

## グループホーム イコロの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	就業時しか行えてない。	人権の尊重は最も重要な事なので、定期的に職員に対して教育を行う時間を確保していきたい。
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修や事業所内での勉強会など計画を立て、レベルアップにつながる様に実地し報告書にてスタッフ全員に共有している。隣接する同グループの特定施設への研修も行い、介護に対する知識・技術を身につけてもらう取り組みを行っている。	外部の研修などにもっと職員が参加出来るように今後、計画を立てていきたい。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同じ地域の同業者と連携を取り、情報交換・アドバイスなど交流を図っている。	オープンして1年しか経過していない我が事業所なので、同業者の良い点を参考に勉強会や行事ごとにも参加させていただき、今後の活動につなげていきたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的に面談を行い、不安や要望等言いやすい環境を整備している。	今後は面談も1年を通して計画性を持って実行していきたい。
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	努力や実績、能力に応じ役職や給与設定を設けている。	

## グループホーム イコロの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談から利用までの時間・話しをよく聞きとり、その方が望んでいること・困っていること・家族の要望など受け止め、安心して入居できる様に努力している。又、入居約1か月のケアプランに必ず「馴染みの関係づくり」をあげている。	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居申し込みや見学の際は、家族のおかれている状況・もとめなど聞き取り不安が軽減できる様に努力している。	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	見学の際、その方に必要なサービスを見極め他のサービス利用も考えながら、その方に1番良いと思われる支援ができる様にしている。	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	自宅で生活していたことと極力変わらない様に家族と相談し、徐々に馴染んでいただく様にしている。利用サービス開始前の訪問・見学・他のコミュニケーションを取り、不安から安心へとなる様に工夫している。又希望者には体験入居も出来るようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	例えば料理に関することは、昔から食進会をされていた入居者を中心に入居者もスタッフも学んでいる。昔の得意な面を活かしてもらい生活の中で学んだり、支えあう関係を築いている。	
30	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族面会時などには必ず本人のことを話し合い、その方にあった介護・環境が作れる様に互いに協力し合い支えている。	

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様にはこれまでと極力変わらない生活・環境を提供し、家族とのつながりを大切にしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	気軽に知人や友人がグループホームに足を運んだり、家族の力をかりながら馴染みの場所へ行ける様に支援している。		まだ一部の方のみの面会なので今後はもっと沢山の方に足を運んで頂けるように取り組んでいきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	閉じこもりを防ぐ為に常にスタッフが入居者が孤立せぬ様、関わりが持ちやすい様に努めている。	○	人間関係が難しく、スタッフが間に入っているが入居者同士の関係が悪くなる事が多々みられる。認知症ということも踏まえて考えていきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居は逝去による1名のみ。契約終了後もご家族とお手紙や電話などで関係を続けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が言ったことや動作など「こうすれば良いのでは」という記録を全てとっている。又、その方の情報や家族の意向を聞き、その方の思いを把握している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接でその方の生活歴・環境を把握し会話の中で取り入れたり、レクリエーションで得意な面を活かしてもらったりしている。家族にも協力を得て、そういった環境を提供している。また入居後にも本人から聞いた今までの生活歴などがあれば職員で情報を共有し今までの生活が継続出来るように努めている。		

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルサイン・排便・尿・水分など、その方の心身状態・変化を見逃さず生活リズムを把握し、記録も含め良い暮らしができる様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に聞いた本人の思いなどを基本とし、家族の思いや担当者の思いを組み入れ計画を作成している。ただ意志をしっかりと伝えられる入居者ばかりではない為、十分ではない。	○	本人の思いを探るために「できる事・できない事」という用紙に担当者が記入しているが、記入方法が徹底されておらず勉強会が必要である。個々に説明は行なっているが充分ではない為、今後の課題である。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎の見直しを行なっている。担当者と良く話し合い介護計画の見直しを行なう。又、担当医に照会状の記入をお願いし医療面についてのアドバイスを頂いている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態が悪化した場合などはスタッフ全員の意見をもとめ、改善策やケアの工夫について話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・併設するデイサービスとの交流・遠方に家族がいる為外出、外食などがなかなかできない方への付き添いなど支援している。	○	本人が「～に行きたい」と訴えてもスタッフ状況などでなかなか達成できない場面も見られる。今後は柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	区長・民生委員のもと、地域行事の参加・ボランティア小学生との交流など協力を得ながらより良い暮らしにつなげている。		まだ一部の方のみとの交流なのでもっと沢山の地域の方と交流を深めていきたい。

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護用品等必要な際は紹介等行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はできていない。		今後はもう少し地域包括支援センターとの協働をしていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族には入居前に協力医療機関と面談していただき、最適な医療が受けられる様に希望を尊重している。又、月2回の往診・24時間の連絡体制とっている。歯科についても毎週往診があり、その他のかかりつけ医についてはスタッフが付き添って受診している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の往診時に利用者の状況を議論し最善の治療が受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の協力医療機関の看護師には困った時・迷った時など常に相談している。又、隣接する同グループの特定施設の看護師にも協力を得て相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は定期的に面会し担当医師・担当看護師と相談している。又、その都度他のスタッフにも伝達し状況を報告している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人がどのような生活を送りたいか、どのような最期を迎えたいかを話し、医師とともにその思いを尊重している。		

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取り」の体制はまだ整備できていないが、今後かかりつけ医の協力を得ながら進めていきたい。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までは該当する方はいないが、本人にとって最善へとつながらる様に情報交換に努める。		
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや入居者対応に関しては、常に「目上の方である・人生の先輩である」ということを頭に入れ指導している。又、記録に関してはステーション以外の持ち出しは厳禁としている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	例えば食事に関しては、希望を極力聞き自己決定ができる様になっている。自分から伝えることができない方は、仕草や今までの生活から理解し納得していただける様になっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活ということで、1日の業務は全く決めていない。一人一人のペースを大切にし、例えば入浴にしても日にち・時間は全く決めていない。自由に生活していただき支援している。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容面に関しては特に気を使っている。定期的に理美容に行き本人が望む様にお洒落している。又、季節にあった身だしなみでその方らしさをアピールしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好み・食べやすさ・バランスを考慮し、畑で採取できる季節物を取り入れ入居者に食べたい物を聞き提供している。女性では料理が上手な方が多い為、準備や片付けを一緒に行なっている。又ミキサー食の方には、まず普通食を見てもらい、その後少量の普通食とミキサー食を提供している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物など1人1人の状況に合わせて提供している。昔からの習慣でお酒を飲みながら食事をされる入居者もあり、1つの楽しみとなっている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄間隔を把握し、常に声かけをし失敗を減らしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・入浴時間は決めていない。昔からの習慣を大切に、毎日入浴される方・1日おきの方など今までと変わらない様に入浴を楽しんでいただいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	好きな時間に就寝していただき、なかなか寝付けない方には飲み物を提供したり室温調節したりと気持ち良く就寝していただける様に支援している。		

## グループホーム イコロの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の買物には必ず入居者も一緒に同行し、ゴミ捨て・洗濯など手伝っていただき役割を持っていただいている。又、手先が器用な方・歌が好きな方など趣味・特技を活かしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理能力を活かしていただくために本人管理としている。ただし、管理が難しい方についてはホームにて立替払いをしているが、出来るだけ一緒に買物に行くなど支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買物は必ず入居者と行っている。またゴミ捨てや洗濯物の取り込みをお願いしています。また、外へ散歩に行きたい時はスタッフが付き添って行きます。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人行ってみたい場所を聞き、可能であればバスハイク等で計画し外出の機会を設けている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも好きなきに出来るようにしている。暑中見舞いや年賀状は入居者に書いてもらい家族に送っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が気軽に楽しく訪問できるよう、各居室だけでなく和室も個室になるように工夫している。又スタッフも気持ちのいいあいさつを心がけている。		

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はおこなっていない。また、資料についてもスタッフがいつでも見られるようにしている。	○	外部研修などでもっと理解を深めていきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関など全て鍵をかけない開放型としている。そのため入居時にご家族にも説明し、鍵をかけないことの意義、リスクを説明し理解を求めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関に鍵をかけないことでのリスクをスタッフが熟知し、所在確認の徹底を図っている。入居者によっては15分ごとに所在確認を行っている。	○	所在不明になった場合は、隣接施設のスタッフの協力も得ている。また最終的には警察の協力も得ている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	紛失の可能性のある貴重品については原則として持ち込みを禁止している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	大きな事故を防ぐため、どんな小さなことでもヒヤハットとして報告し、リスク係を中心に防止策に取り組んでおり、全スタッフが共通の認識が出来るように努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う救急救命講習、事業者が行う救急救命の研修に定期的に参加している。また急変時対応表を作成しいつでも見れる状況にしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと同一敷地内の事業所と合同で避難訓練を行っている。入居者にも避難訓練に参加していただき、避難経路、避難方法の確認を行っている。	○	現在は地域の人々の協力を得られるような働きかけは行っていないので一緒に取り組んで行けるよう努力したい。

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ヒヤリハットが発生した際はすぐにご家族に報告している。またご家族が来られた際は最近の生活状況を含めお話しする時間を設けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り時に全員の体調について把握している。またバイタル測定、表情の変化等異変の発見に努め、その情報の共有に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導のもと、薬剤師から協力していただいている。用法等についても常に薬剤師からアドバイスをいただきながら服薬管理に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動、散歩にて予防を行い、水分補給は常に心掛けている。便秘の方に対しては、牛乳等の提供や腹部マッサージを行っている。また医師に相談し、薬を調整してもらったり、下剤を処方していただいている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアをおこない、義歯の方は週2回ポリドントを使用している。また週1回歯科医師の往診があり、相談・診察を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的な献立については季節の要素を取り入れながら栄養士が作成し、医師のアドバイスをうけながら個々の状況にあわせて提供している。また、食事量、水分量、体重等は記録をとり、健康管理に努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出からの帰宅後の手洗い消毒、食事前の手洗い消毒を徹底している。またスタッフ、入居者は特別な事情がない限りインフルエンザの予防接種を受けている。		

## グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>買物は毎日入居者と近くのスーパーに行き、新鮮な食材の提供に努めている。また、まな板や布巾等は毎日ハイター消毒を行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
82	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関にはテーブルとイスを置き、ちょっとしたテラスのようなスペースを設けている。花を植えたり観葉植物を置いたりして心地よい空間を提供してる。</p>	○	<p>道路から玄関までが遠くて入りにくいため、近隣の方が入りやすいように今後アプローチを工夫していきたい。</p>
83	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は部屋番号や名札は付けず、ボックスを設けてそこに思い出の品等を入れていただくことで部屋の認識を促している。また吹き抜けを多様し、常に明るい空間を演出している。食堂からの景色も圧迫感がないように配慮している。</p>		
84	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者居室は全て個室としている。また、ダイニングと和室を設け、それぞれ好きな空間でお過ごしいただいている。お互いの居室で会話を楽しまれることもある。</p>		
85	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、カーテン、クローゼットは設置しているが、その他のタンスや仏壇などは自由に持ち込まれている。また寝具も個人の持ち込みを可としている。</p>		
86	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常に換気に努め、就床時などは入居者の意向に沿いながら室温調節を行い配慮している。トイレ等においが気になる所には消臭剤を使用し、不快感の軽減に努めている。</p>		

## グループホーム イコロの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、玄関など出来るだけ手すりを設置するなどして一人で歩行等できるよう配慮している。洗面台も車椅子のまま使用できるようにしている。	○	風呂場に関しては、出来るだけ自己の能力を活かせるよう手すりを設置する予定。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の昔からの特技、好きなこと等の能力を活かし、かつ楽しみとして行っている。また、入居者に苦にならない程度の役割を与え、自立を促している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内にある庭園、畑、花壇を有効に活用している。庭園では周回コースを散歩し、畑では季節の野菜を育て、収穫し、調理し、食している。また花壇においても、毎日水遣りを行い、生活のリズムとしている。		

グループホーム イコロの里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

## グループホーム イコロの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の業務を極力簡略化し、より多くの時間を利用者との時間に割くように努力しております。より多くの時間を利用者との時間に割くことにより、生活にゆとりと安らぎを持たせ、できる限り利用者の習慣に合わせた生活を送っていただけることができるように取り組んでおります。